

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校66.4%, 県 69.2%)

対県比 96.0%

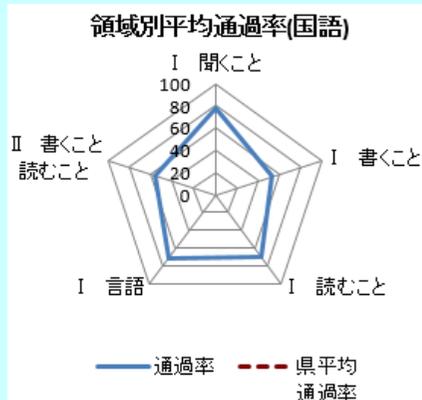
学力定着実態調査 本年度正答率

本校	%	対全国比	%
全国	%		

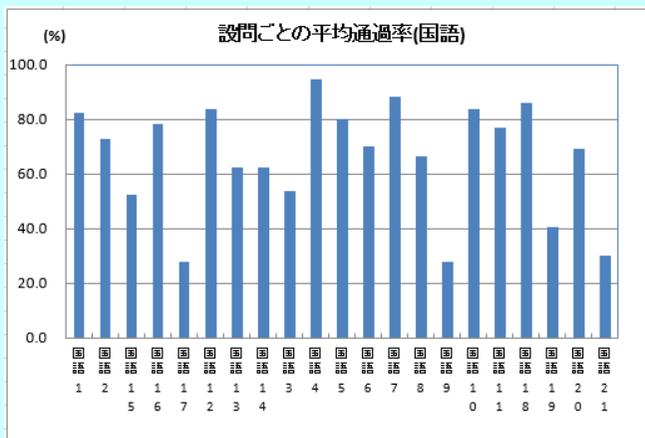
本年度の結果について

全体平均通過率は66.4%であり、タイプⅠ通過率は69.0%、タイプⅡ通過率は55.4%であった。タイプⅠについて、平均を下回る設問に偏りがあり多くの生徒が同じ課題を抱えている。漢字の読み書きや言葉の意味など語彙を問われるものがそれであり、小学校既習事項から確認や定着が求められる。1つの資料から情報を読み取することはよく出来ているが、複数の資料を用い考えをまとめることに課題がある。

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



全国学力・学習状況調査 本年度正答率

A問題		B問題	
本校	77%	本校	70%
全国	77.4%	全国	72.2%
県	78%	県	73%

来年度(全国学力学習状況調査)の目標値

対全国比 102.0%

## 重点課題

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】三1②「シドウ」(27.0%)

「始動」「指導」のどちらが文脈にふさわしいかを、文章を読まずに判断したであろう解答があることと、漢字の読み書きへの課題の両方が見えた問いであった。

【課題2】四3「述語に対する主語を補う」(29.7%)

読み手に伝わるための文章を推敲することに課題がある。無記入を除く誤答は55.1%であり、半数の生徒は「主述の関係」の理解が完全ではない。

全国学力・学習状況調査

【課題1】国語 A 9六1「楷書と比較したときの行書の説明として適切なものを選択する」(38.1%)

書写の時間に行書で文字を書いているが、行書の特徴などは意識していないことがわかる。行書と楷書の違いを認識させる必要がある。

【課題2】国語 B 1三「比喻を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く」(41.5%)

無解答も10.4%あることから、直喩・隠喩・擬人法などの比喻表現を覚えていない、または区別できない生徒が多いと考えられる。

## 重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】目標値(60.0%) 実施後数値(%)

語彙の充実が求められる。言葉と出会う機会を増やす必要がある。現在毎回授業の初めにこれまでに学習した漢字を振り返る時間、その漢字・語句を使ったどのような熟語や言い回しがあるのか考える時間を取り入れている。定期的に言葉を扱うことで定着を図る。また同音異義語や慣用句に触れ、比較や類推して言葉を選択する能力を育む。

【課題2】目標値(60.0%) 実施後数値(%)

「主語・述語の関係」の確認をし、動作や状態は、誰の(何の)ものか説明できる力を育む。これまでの作文課題から、どの生徒も一文が長い文章を書く傾向にあるので、読み手に伝わる文章、主語述語の分かる文章を書く練習を取り入れたい。

全国学力・学習状況調査

【課題1】目標値(60%) 実施後数値(%)

行書で書く授業を行う際、楷書も提示し比較して考えることで、筆脈や点画の省略・連続などの違いに気づかせる活動を取り入れ、定着を図る。

【課題2】目標値(50%) 実施後数値(%)

詩や物語の中に比喻表現があるたびに反復学習するだけでは定着しなかったため、創作活動をするときに自ら考えた比喻表現を取り入れ、何をどのように例えているかを説明させる活動などを行うことで定着を図りたい。

※今後の改善計画については別紙

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校63.6%, 県66.9%)

対県比 95.0%

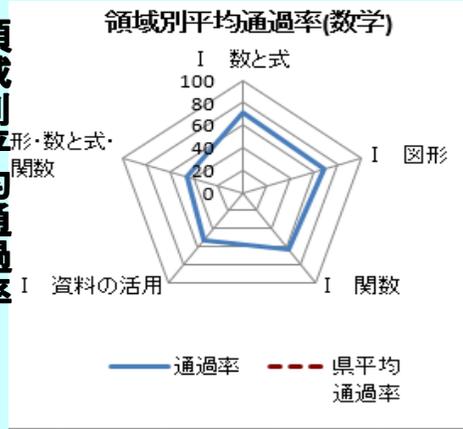
学力定着実態調査 本年度正答率

本校	%	対全国比	%
全国	%		

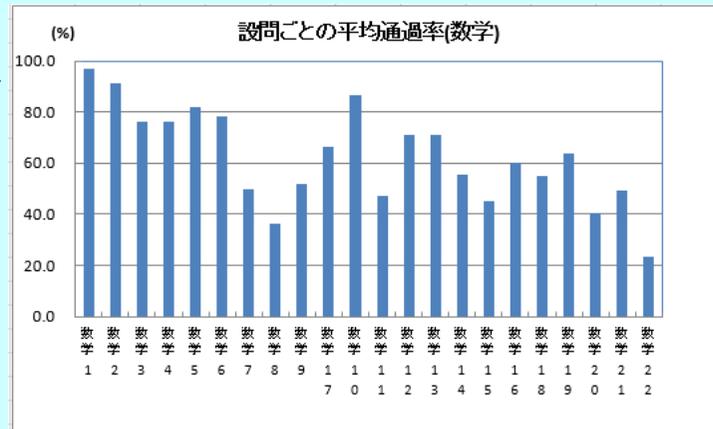
本年度の結果について

数学の結果において、タイプⅠの通過率は69.3%であり60%を超えている。このことから、基礎的・基本的な内容についてはおおむね定着が図られていると考えるが、一方タイプⅡの通過率は44.3%となっており、知識・技能を実生活や学習の様々な場面に活用する力に課題があると考えられる。

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



全国学力・学習状況調査 本年度正答率

<b>A問題</b>		<b>B問題</b>	
本校 63 %		本校 45 %	
全国 64 %		全国 48 %	
県 64.6%		県 48.1 %	

来年度(全国学力学習状況調査)の目標値

対全国比 101.0%

重点課題

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】(大問3) (37.8%)

自然数の定義について理解できていない状況がみられた。

数の分類について、振り返り、定着をはかる必要がある。

【課題2】(大問11(2)) (32.4%) (大問12(2)) (16.2%)

考え方を数学的な表現を用いて説明する問題において、正確に解答できない状況がみられた。

全国学力・学習状況調査

【課題1】(扇形の弧の長さを求める) (通過率 29.6%)

扇形の弧の長さを求める時に、全く異なる公式を使っていた生徒が51.9%。円周ではなく、円の面積を求めていた生徒が、6.5%。

【課題2】(錯角の位置にある角について正しい記述を選ぶ) (通過率 34.3%)

錯角を対頂角と勘違いしているパターンの生徒15.7%。錯角が何か理解することが出来ていない生徒33.3%。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】目標値(60.0%) 実施後数値(%)

知識・理解についての学習の定着をはかるため、計算などの技能のみならず、知識・理解においても小テストなどを行い、細やかな振り返りを行いたい。小テストでの問い方についても、工夫を凝らしたい。

【課題2】目標値(45.0%) 実施後数値(%)

条件文が多い問題文や、会話文による他者の考え方を先ず理解できるようになる必要があるため、授業において他者の考え方をワークシートにまとめる活動を多く取り入れたい。

全国学力・学習状況調査

【課題1】目標値(50%) 実施後数値(%)

用語を正しく理解し、公式を整理させてから、様々な値を求める反復練習して、定着を図る。

【課題2】目標値(50%) 実施後数値(%)

図の中で、角の名前と位置関係を確認してから、いろいろな出題パターンで反復練習して、定着を図る。

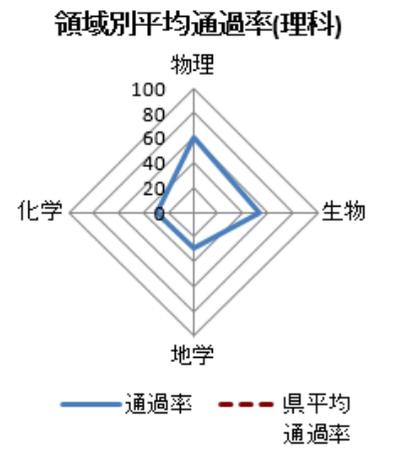
※今後の改善計画については別紙

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校43.9%, 県50.8%)

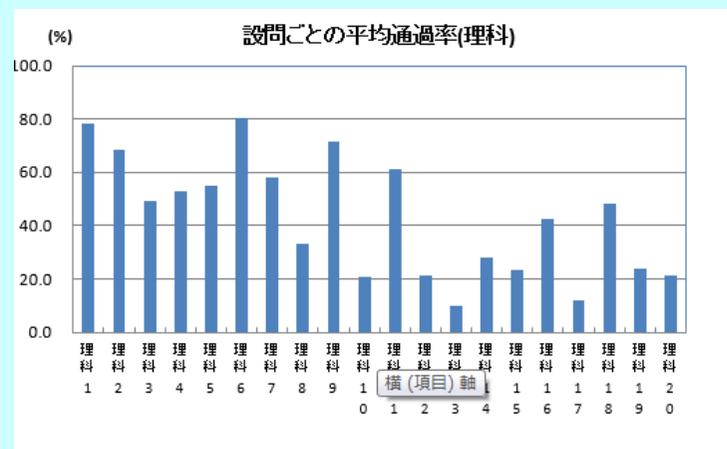
対県比 86.4%

本年度の結果について

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



- ・物理分野 タイプⅠ 60.0% タイプⅡ 61.6%  
物理分野はおおむね通過率がよかったが、水圧と浮力を調べるために必要な条件について思考する問題に課題があった。
- ・化学分野 タイプⅠ 26.0% タイプⅡ 34.8%  
科学分野は問題17のメスシリンダーの目盛りの読み方に課題があった。
- ・生物分野 タイプⅠ 57.4% タイプⅡ 45.7%  
生物分野は問題10のゾウリムシの名称を答える問題に課題があり、基本的な問題の定着に課題があった。
- ・地学分野 タイプⅠ 36.6% タイプⅡ 16.6%  
地学分野は問題11の問題以外の通過率が悪く、岩石の特徴や地層のでき方についての定着に課題があった。

重点課題

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】(岩石の分類) (8.1%)

解答類型の誤答から、火成岩と堆積岩のでき方の違いとその特徴について混同していると考えられる。

【課題2】(メスシリンダーの目盛りの読み方) (10.8%)

解答類型の誤答から、メスシリンダーの読み方で最小目盛りの10分の1の値まで読むことを理解できていないことがわかる。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】目標値 (60%) 実施後数値 ( )

地学分野の学習は、再現実験をすることが難しく学習内容をまとめて終わってしまうことが多くある。この問題では、ある岩石をその特徴から火成岩なのか堆積岩なのか理由も含めて答える問題になっており、誤答分析から火成岩の特徴と堆積岩の特徴を混同して覚えている生徒が多くいる。そのため、マグマの噴火による噴出物が冷え固まってできた火成岩と水の働きでできた砂や泥などの堆積物が固まってできた堆積岩の特徴を実物の岩石を比較しながら観察したり、ICTを活用して頭の中でしっかりとイメージできるようにする。そして、その岩石のでき方をしっかりと理解させることで定着をしていきたい。

【課題2】目標値 (60%) 実施後数値 ( )

化学分野では、多くの実験器具やその使い方が出てくるため、一つ一つの使い方を丁寧に理解しないと危険なことが起きる可能性がある。メスシリンダーの使い方は、物質の密度を計算するために必要な実験操作であり、目盛りの数字を読むことはできるが、最小目盛りの10分の1の値を目分量で読み取ることを苦手としている生徒が多くパフォーマンステストなどを実施して、生徒が生徒を教えあう授業の工夫をすることで定着を図ってきたい。

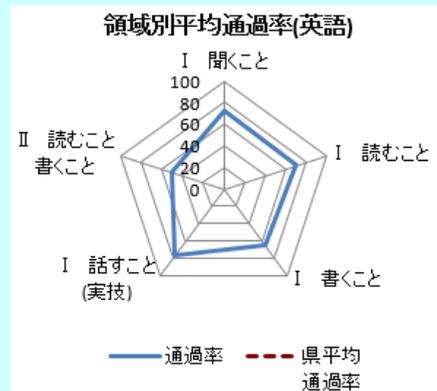
※今後の改善計画については別紙

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 68.5%, 県72.4%)

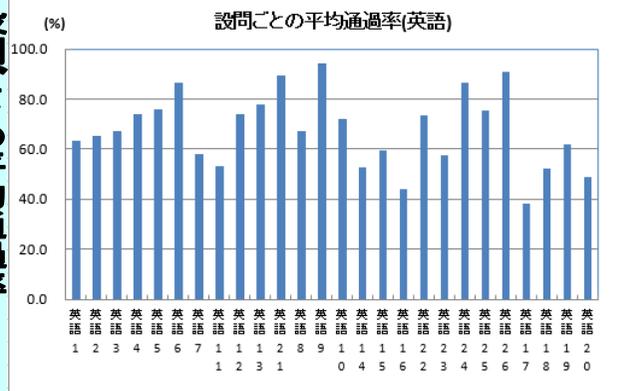
対県比 94.6%

本年度の結果について

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



全体の通過率は 68.5%であり、タイプ I の通過率は 71.1%、タイプ II の通過率は 54.2%であった。昨年度と比べると、全体としては 6.2 ポイントの増加がみられた。昨年度課題のあったタイプ I の「話すこと」における Wh 疑問文に対する答え方や、「聞くこと」における曜日の聞き取りについて、いずれも授業の中で繰り返し練習したり、コミュニケーション活動の中での英語使用を増やしたりするなどの授業改善を行ったことがある程度の成果をあげたと考えられる。

タイプ II の問題では通過率が低だけでなく無答率が高く、基礎的な内容についてはある程度身に付いてはいるものの、知識や技能を活用する能力に課題がある。

重点課題

「基礎・基本」定着状況調査

【課題 1】 ( 大問 9 ) (50.0%)

自分自身について過去形を用いて表現する問題において、動詞の形の誤り (過去形にできない、進行形を用いている) などの誤答が見られる。

【課題 2】 (設問 10) (2)) (41.7%)

会話の場面に応じて、第 3 者について否定文を用いて簡単な文を書く問題で、3 人称単数の s を付け忘れたり、動詞の形を間違えるなどの誤りが見られた。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

「基礎・基本」定着状況調査

【課題 1】 目標値 (65.0%) 実施後数値 ( % )

動詞の変化の形や用法をくり返し練習する。授業の中で日記を書く活動、週末にしたことを話す活動など、身近な体験を過去形を用いて英語で正確に表すことに慣れる。

【課題 2】 目標値 (60.0%) 実施後数値 ( % )

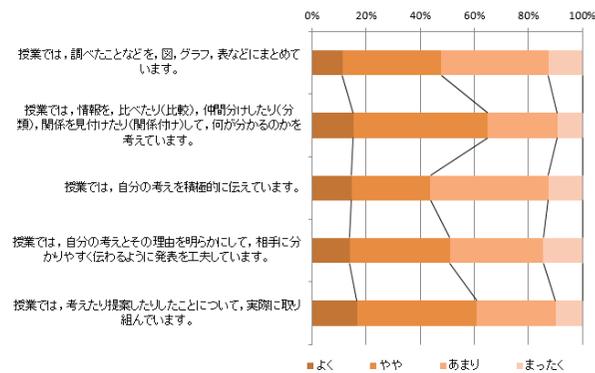
主語や時制などに注目して、動詞の形を考える練習をする。文法の学習をする際に、I を主語にした自己表現だけでなく、インタビュー活動などのコミュニケーション活動をしたあとにその結果を書くなど、第三者について説明する活動の中で 3 単現の s をつけて表現する機会を増やす。

※今後の改善計画については別紙

# 質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査）

## （1）生活・学習

「課題発見・解決学習」(2)



生徒の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
授業では、自分の考えを積極的に伝えていきます。(56.3%)	授業の中で、ペア学習や全体思考の場を設定し、自分の意見を発表する機会を作る。	1年2年	65%	生徒へのアンケート	学期に1度		

## （2）教科

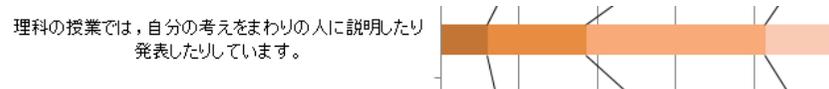
国語の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。



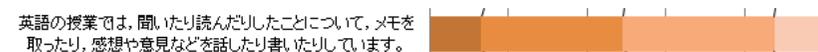
数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。



理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。



英語の授業では、自分の考えや気持ち、事実などを英語で話しています。



	生徒の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	国語の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。(53.0)	単元ごとのまとめや活用問題として具体的な場面設定のある問いや、課題にもあがった資料問題を定期的に取り入れる。	2	65	定期試験 生徒へのアンケート	学期に1度		
数学	数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。(43.7)	数学における語句の意味が正確に理解できておらず、説明などを行う上での妨げになっているので、授業において繰り返し、語句について確認を行うようにする。	2	60	生徒へのアンケート	学期に1度		
理科	理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。(37.1)	授業の中では、課題解決学習を取り入れた授業を積極的に行っており、生徒自身が思考したり、ペア学習やグループ活動を通して思考力・表現力が高まるようにする。	2	60	生徒へのアンケート	学期に1度		
英語	英語の授業では、聞いたことについて、メモを取ったり、感想や意見などを話したり書いたりしています。	「聞くこと」の活動においてメモの取り方を指導し、教科書本文やALTの体験をもとに、感想や意見を書くなど、4技能を統合した活動を行う。	2	65	生徒へのアンケート	学期に1度		